

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079200319
法人名	有限会社 豊
事業所名	グループホーム 豊
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡香春町採銅所5384番地1 (電 話) 0947-32-6625

評価機関名	株式会社アーバン・マトリック		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年11月6日	評価確定日	平成20年12月9日

【情報提供票より】(20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 9人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1～2階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円		その他の経費(月額)	(光熱水費)6,000円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 860円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	8 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	54 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金子内科医院 / 糸田町立緑ヶ丘病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム豊は、周辺を緑豊かな自然に囲まれた、2ユニットのグループホームである。菜の花・レンゲ・秋の黄金色とホームを囲む田園風景は、四季折々の楽しみや季節の潤いを感じさせてくれる環境を有している。また、自然の楽しみの一つである、地域で採れる新鮮な食材もホームの食卓にのぼり、食での季節感を味わうことができる。同じ建物内に有料老人ホームが併設し、自然を感じながら充実の設備の中で人材面も充実し、これからが楽しみなグループホームである。代表者・施設長・管理者それぞれがこのホームを良いものにしようという高い意欲をもっている。職員も今年度は新たな気持ちでケアやサービスの充実を図ろうと頑張っている。入居者の日々の暮らしの健康管理は家族に大きな安心を与えている。今後は、更に管理者・職員のチームワークの良さを活かし、更なる豊かな暮らしへの充実が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で指摘された理念に関しては、地域密着型サービスの主旨をふまえ、理念がわかりやすいものになるように理念の見直しを行っている。また、プライバシー保護や家族との連絡体制に関する事項などについて改善を図り、外部評価を意義あるものとしてとらえ、積極的に改善に向けて取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者・職員は外部評価の意義を理解し、自己評価は、管理者2名で内容を検討し、検討後に職員の意見を聞き作成している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、地域代表1名・家族代表2名・入居者代表1名・行政1名で構成されている。ホームの活動内容などを報告し、委員の方々からの意見・質問をうかがっている。意見については検討し、サービスの質の向上に役立てている。今後も2ヶ月毎の開催と参加への呼びかけに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の面会は必ず毎月1回あり、その機会に施設長もしくは計画作成担当者が入居者の日頃の生活ぶりや健康状態について報告し、家族の意向なども言っていたできるように取り組んでいる。苦情や意見は、真摯に受けとめ、解決できるように取り組んでおり、苦情に関する対応は苦情報告書があり、対応後の処理まできちんと記録し、前向きにサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎月、入居者の誕生日会を開催しており、お祝いの宴として、地元の婦人会との交流で日本舞踊・和楽器演奏をしていただき、地域との交流・ふれあいの機会をつくっている。地域との接点として商工会に加入し、地元の地域活動を応援している。近隣の方とは、ホームの行事案内をしたり、日頃迷惑となっていることがないかなど、日々のコミュニケーションにより、ホームを理解していただき、温かく見守っていただける関係を構築している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの主旨をふまえ、理念を改善している。理念は、5項目からなり、第5項目目に地域密着型サービスに大きく関わる内容として明示している。第5項目の内容は、「住み慣れたこの地域で、地域住民の一人として地域に参加し、暮らせるように支援します」となっており、地域の中でその人らしく、尊厳を支えるケアに取り組むことを理念に掲げている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化に関して、職員の意識を高めるために、日々のケアやサービスを提供する中で、振り返るためのレポート提出などを行い、理念を柱としてケアが実践できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月入居者の誕生日会を開催しており、お祝いの宴として、地域の婦人会との交流で日本舞踊・和楽器演奏をしていただき、地域との交流・ふれあいの機会をつくっている。地域との接点として商工会に加入し、地域の地域活動を応援している。近隣の方とは、ホームの行事案内をしたり、ホームを理解していただき、温かく見守っていただける関係づくりを構築している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は外部評価の意義を理解し、自己評価は、管理者2名で内容を検討し、検討後に職員の意見を聞き作成している。前回の外部評価の指摘を受け、理念の見直しを行うと共に、プライバシー保護や家族との連絡体制に関することについて積極的に改善している。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域代表1名・家族代表2名・入居者代表1名・行政1名で構成されている。ホームの活動内容などを報告し、委員の方々からの意見・質問をうかがっている。意見については検討し、サービスの質の向上に役立てている。今後も2ヶ月毎の開催と参加への呼びかけに期待したい。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の状況により、高齢者ケアの窓口である福祉課や障害者福祉の窓口を訪れ、社会保障の面で情報を常にキャッチできるように取り組んでいる。相談や質問がある時は出かけ、香春町との連携を図るように努めている。また、県福祉課と成年後見制度などを含め、資産のない生活保護の方の場合の対応など相談し、入居者の社会的な権利を守るために日々取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	身寄りのない入居者が数名おり、成年後見制度での適用など模索している。身寄りがなく、資産のない生活保護の方の場合は、どうすればよいのか、現在、県福祉課の方と相談中である。現在、成年後見制度を利用している方は1名おられる。		
4. 理念を实践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は必ず毎月1回あり、その機会に施設長もしくは計画作成担当者が入居者の日頃の生活ぶりや健康状態について報告している。また、定期的に「ゆたかだより」を発行しており、行事や活動を報告している。日々の体調の変化など、ささいなことでも個々に合わせて連絡を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会は必ず毎月1回あり、その機会に施設長もしくは計画作成担当者が、入居者の日頃の生活ぶりや健康状態について報告し、家族の意向なども言っていただけるように取り組んでいる。苦情や意見は、真摯に受けとめ、解決できるように取り組んでおり、苦情に関する対応は、苦情報告書があり、対応後の処理まできちんと記録し、前向きにサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者ごとに担当者を決め、なじみの関係を大切に、責任をもってサービスの提供ができるように努めている。日常的には、担当以外でも職員と入居者は交流があり、介護者の異動や離職の際には、大きなダメージがないように支援している。異動や離職の場合は、事前に担当者を重複させるなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用条件は、性別や年齢制限はなく、職場が必要とする人材であれば、定年制は一応設けているが雇用を継続できる環境を整えている。職員には研修の機会があれば積極的に参加するように働きかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	県社会福祉協議会の権利擁護に関する研修「尊厳とは」「身体拘束とは」に参加している。また、香春町の人権に関する研修情報を把握し、香春町より配布される資料を閲覧することで学習する機会としている。日常業務の中で、入居者一人ひとりの権利や当たり前の暮らしを問いかけ人権教育を行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのための研修受講に関して、その重要性を理解し、県社会福祉協議会・県地域介護実習・普及センター・香春町の研修情報を把握し、平成20年度の研修計画を立てている。また、内部研修として定期的に認知症・ヒヤリハットの事例検討会・身体拘束など多彩なテーマで研修を行い、職員が働きながら、学べるように積極的に取り組んでいる。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設として地域に特別養護老人ホーム・グループホームが複数あり、多彩な展開を行っている。今後は、同法人と関連のあるグループホームとの情報交換や合同の勉強会などネットワークを築いていくことが求められ、また、地域内のグループホームとの情報交換なども合わせて取り組むことが期待される。	○	地域へ向けて認知症ケアを啓発していくためには、グループホームのネットワークが不可欠である。まず、同法人の関連するグループホームとの交流をすすめ、地域内のグループホームへとネットワークが広がることを期待したい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居も可能であり、しばらく入居者の生活習慣や性格の傾向・病態・ADLなどを観察し、他の入居者との関わりなどを把握しながら、入居の可能性を判断し、なじみの関係に配慮しながら入居できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの暮らしの習慣を大切に、漬物やらっきょを漬けたり、シブ柿をつくったり、季節の中で楽しむ暮らしを支援している。また、日常的には、洗濯物たたみや畑仕事など楽しんでいただけるように取り組んでいる。日々の暮らしの中では、入居者の言葉に耳を傾け、生活歴に学びながら、支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、担当制を採用しており、1ヶ月ごとに担当職員が、課題・問題・要望・サービスの実施内容・入居者の変化・対応・今後の方針・予定など、まとめて報告するようになっている。担当制により、入居者の日々の状況が把握でき、日々の職員の気づきなどもメモに取り、センター方式など活用されると更に入居者の思いや意向を深く掘り下げることが可能になると考えられる。	○	入居者の生活歴を含め、思いや意向など、日々の職員の気づきをもとに更に深く掘り下げることが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護サービス原案は課題分析を行った結果に基づき、計画作成担当者が作成し、入居者・家族とサービスに関わる職員の意見交換(サービス担当者会議・ケアカンファレンス・家族面会時・電話での意見交換など)を行い、最終的に介護計画を決定している。		
19	39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者ごとにケアプランチェック表があり、ニーズ・長期目標・短期目標・ケアサービスの内容・実施結果など記録され、毎月ごとにモニタリングを行っている。入居者の状態変化が生じた場合は、入居者・家族・必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護付有料老人ホームの併設により、専門職などマンパワーがあり、状態に応じたサポート体制が期待できる。また、合同のイベント開催により、交流やふれあい機会を育んでいる。		
21	45	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の医療機関との連携や週1回の訪問治療が行われている。かかりつけ医には全員定期的に受診し、健康管理を受けている。受診ノート・往診ノートがあり、かかりつけ医との情報交換を行い、また、FAXで入居者の日々の状況を報告したり、体調変化の把握に努め、健康管理面での変化に対応できるように取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合における対応指針を定め、重度化対応に関する考え方や対応の体制・各職種の役割・看取り介護への対応などについて、本人・家族の意向を尊重し、対応していきたいと考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけは特に職員に注意し、「優しい言葉を使ってください」と指導している。プライバシー保護に関しては、学習会を開催し、マニュアルにそって理解を高めている。また、書類や記録類は事務所内の一定の場所で保管・管理を行っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は立てているが、入居者によってはその日の気分や体調により、本人が望む過ごし方を支援している。畑づくりや外出などの要望は、日々の職員の工夫により、他の入居者への影響がない範囲で応じている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のアンケートを取り、好きなメニューや嫌いなメニュー・味付け・見た目・量・温度について回答を得てメニューに活かしている。食事の準備や後片づけなど、できる方はできる範囲で生活リハビリとして役割を担っていただいている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は平成19年度に家族の要望があり、入浴についての検討を行い、必要時には、回数に関係なく、サービスを行うように支援している。その方のペースに合わせて足浴やシャワー浴の支援も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみとして同法人の関連施設である天馬保育園との交流がある。また、玄関前のプランターで野菜づくりやホーム近くに借りている菜園で家庭菜園を楽しんでいただいたり、入居者の趣味や得意なものを披露できる機会を提供するなど、役割・楽しみごとの機会を多く持つように支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、ホームの近郊を30分程散歩している。当日の外出希望は、配車の都合がつけば実施している。受診や買い物・ビデオレンタル・図書館などの日常的な外出や季節感を感じていただくための花の名所へのドライブなど支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や正面玄関は施錠していない。面会者も自由に入ってこれるようにしている。しかし、ホームは交通量の多い国道に面しているため、入居者が一人で出ると事故に遭う危険性が高い。よって門のシャッターは車の出入り以外閉じている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は消防署を交え毎年実施し、災害時に備えている。隣家とは挨拶など日頃のコミュニケーションを大切にしており、火災など、事故が発生した場合は、救助や避難誘導など協力を得ることが可能である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士により献立のチェックを受け、栄養バランスに配慮した献立となっている。食べる量や好き嫌いについては、個人差があり個々に応じた食事を提供している。主食の量の加減と形態を配慮している。定期的な血液検査の結果を参考に栄養状態が確保できているかも確認している。水分摂取量も一定の水分が確保できるように取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○ 居心地のよい共用空間づくり	共用の空間は、広々としており、開放感がある。壁には、入居者の写真や入居者と職員が一緒に作り上げた飾り物が飾られ、家庭的な雰囲気づくりに工夫している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には、これまでの入居者の暮らしの継続に配慮し、テレビ・箆笥・仏壇・冷蔵庫が持ち込まれたり、好みのスターのポスターが貼られ、思い思いの居室となっており、居心地の良い空間となっている。居室の窓は障子とカーテンの2種類の窓があった。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			